

# 小鳩会通信

Respice Stellam, Voca Mariam.

「私たちのしていることは大海の一滴にすぎないと感じています。けれど、もしその一滴がなければ、海はその一滴分、確かに少ないということです。」マザー・テレサ (コルカタの聖テレサ)

## 米一合の季節です

大阪明星学園では、晩秋を迎える頃、釜ヶ崎の労働者の皆さんへの支援として、炊き出しのためのお米と石けんを釜ヶ崎へ

届けています。釜ヶ崎では、仕事の減少や高齢化などの課題があり、日々の生活に苦労している人々も暮らしています。特に、冬に向かって仕事は少なくなります。釜ヶ崎には人々を支援するカトリック教会や修道会の活動、キリスト教その他の支援グループなどがいくつもあります。かつて来日したマザー・テレサも釜ヶ崎に滞在しています。今回集まるお米は釜ヶ崎の三角公園の炊き出しに活用されます。三角公園では定期的に炊き出しを行なっています。身近に日々の生活に困窮する人がいます。炊き出しに行きますと「まずは、ひとりでも多くの人に食事を」との気持ちになります。そのような気持ちで、皆さんの温かい協力をお願いします。



↑ コロナ前の釜ヶ崎炊き出しボランティアの様子。この日は雨でしたので、おにぎりにして配っています。

実施日：12月11日(土)



===活動のながれ===

- ①前日の10日(金)、自宅でお米と固形石けんを準備してください。  
※お米は1合より多くても構いません。  
固形石けんは家にあれば持ってきて下さい。
- ②11日(土)朝、クラスの小鳩会委員がお米を預かる箱と固形石けんを入れるレジ袋を自分の教室に用意します。
- ③登校してきた生徒はお米を箱に、石けんをレジ袋に入れます。  
※お米は持参した時の袋のままレジ袋に入れてください。
- ④小鳩会委員は8時25分頃から、クラス生徒のお米、石けんが全て回収されていることを確認して、箱とレジ袋をS208教室まで運んでください。

放課後、小鳩会委員の有志で全校生徒のお米を米袋にまとめ、車へ積み込みます。積み込み完了後、宗教部の先生が釜ヶ崎まで運びます。



↑ 昨年度、放課後に小鳩会有志が全校生徒のお米をまとめてくれました。

分かち合いの心とともに ~たとえば、おかわりをひかえてみて、その一合を自分で袋に詰めて持参してみてください。

お米や生活用品など実際に物を届けることは、もちろん大事なことです。その一方で、マザー・テレサも「大切なのは、どれだけたくさんあげるかではなく、どれだけ愛をこめるか、ということ」と語っています。この活動を物資の支援にとどめず、「分かち合い」としてほしいのです。すぐ隣に、寒さに震える人がいたならば、あなたは、その手にあるパンとスープをきつと分け合うことでしょう。すでにある愛情、その優しさをもっと多くの分かち合いへと広げたいというのが、小鳩会活動の心です。さらに、今回の活動は、いつもよりも身近な大阪の人々との分かち合いです。この機会に、家族でいろいろなことを語り合ってみたり、たとえば、いつもは充分にあるおかわりをひかえてみて、その一合を自分で袋に詰めて持参してみてください。また、相手に与えるだけでなく、自分の心にもいただく何かがあることにも気づいてほしいのです。自分のコップから愛をどれだけ相手のコップに注いでも減ることはありません。むしろ、お互いが満たされるのです。「神からいただいた賜物を人々に与えることができますように。」というのは、取っておくためではなく、分かち合うためにいただいているのですから。」